

しらさぎ

第226号

令和7年3月15日 発行

一般社団法人 鶴岡地区医師会

鶴岡市立湯田川温泉
リハビリテーション病院
広報委員会

山形県鶴岡市湯田川字中田35-10

TEL 0235-38-5151

FAX 0235-38-5152

URL <https://yutagawa-med.jp/>

E-mail yutagawa@orion.ocn.ne.jp

鶴岡市立湯田川温泉 リハビリテーション病院の 基本理念

私たちは、患者・利用者の皆様の尊厳と自己決定権を尊重し、
心の通った医療、介護とリハビリテーションを提供します。



当院は、(公財)日本医療機能評価機構の認定を受けています。

令和6年度 入院患者満足度調査結果報告

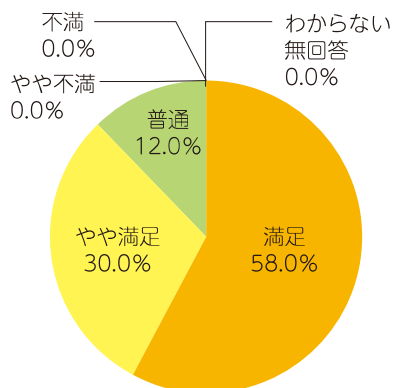
当院では、入院患者の皆さんの医療サービスに対する満足度を把握し、よりよいサービス提供を目的として、毎年「入院患者満足度調査」を実施しています。今年度実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【実施概要 および 評価方法】

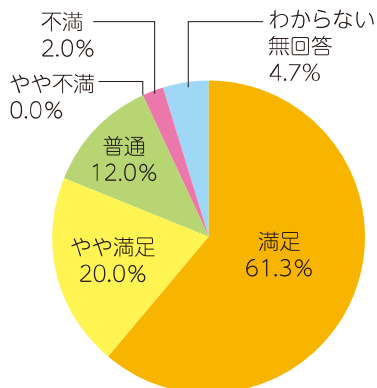
- 調査対象：調査時点で当院入院期間が3週間以上の患者さん全員(66名)
- 調査方法：アンケート用紙を配付し、返信用封筒を添付。また玄関に回収箱を設置し回収。無記名回答方式で実施。
- 回 収 数：50名(回収率:75.8%)
- 回答割合：ご本人 25名(50%) ご家族 21名(42%) 未記入 4名(8%)
- 評価方法：「満足、やや満足、普通、やや不満、不満、わからない・無回答」の各項目の合計を回収数で割った数値で評価しています。

★病院全体についての評価、また職種ごとに患者さんに対する態度や言葉遣い、相談・質問のしやすさ、説明の仕方などについてお聞きしました。

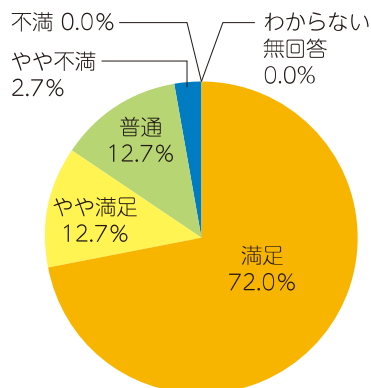
★病院全体について



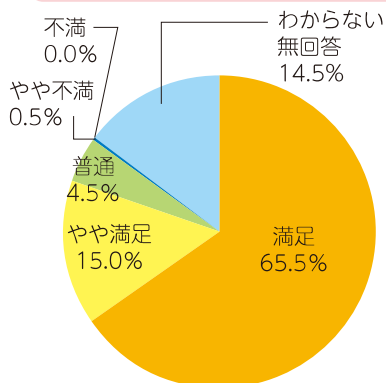
★医師について



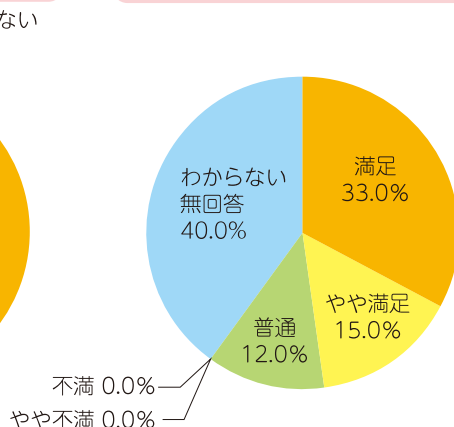
★看護、介護職員について



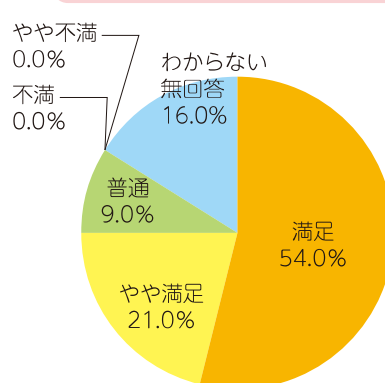
★リハビリスタッフについて



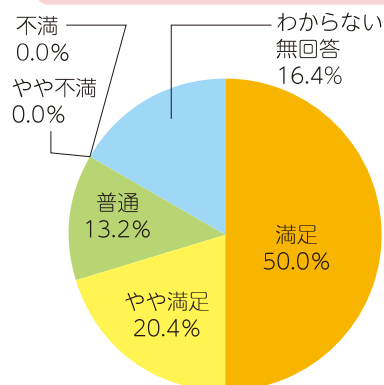
★他の専門職について



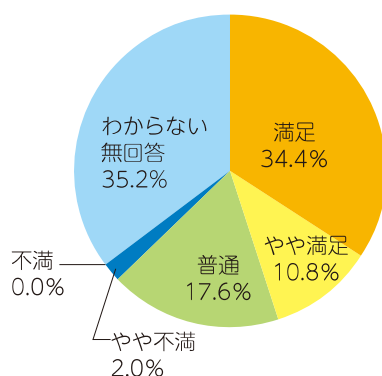
★窓口職員について



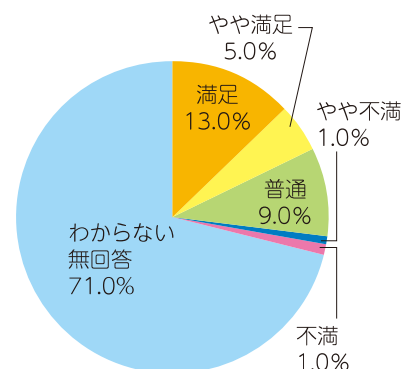
★入院時の電話連絡、入院中の相談・退院支援について



★生活環境、駐車場について



★売店について



各項目において、多数の「満足」「やや満足」の評価をいただきましたが、「やや不満」11件、「不満」4件の回答もございました。

いただいたご意見・要望については全職員で共有し、対応策の検討および改善に取り組み、皆様により満足いただける病院となるよう、さらなる努力を重ねてまいります。

アンケート調査にご協力いただきました患者さん・ご家族の皆さん、ありがとうございました。

いただいた感謝のコメント、ご意見・要望に対する対応策について、一部紹介させていただきます。

◎入院時には先がどうなることかと思いました。皆様のおかげで何とか動けるようになり、退院となりました。本当にありがとうございました。お世話になりました。

◎温かくとても丁寧に接してくださりましてありがとうございます。感謝の念に堪えません。

(看護師・介護職員について)

◎大変忙しいのはわかりますが、自分の仕事優先で患者を急かせないでほしい。

➡ 業務に追われ、患者さんへの対応が疎かになっていたかもしれません。今一度、接遇マナーを意識し、安心して入院生活が送れるように、患者さんに寄り添った看護・介護の提供に努めていきます。

(面会対応について)

◎感染症予防の観点から面会制限を行うことは理解できますが、他の医療機関と比較し過剰と思われます。患者は何かと不安を感じ、家族との触れ合いが治療回復の一助となるものと考えます。家族の立場からの視点で面会対応について、再度ご検討願えれば幸いです。

➡ 当院の感染症対策にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。面会制限につきましては、長期間に渡り、患者、ご家族の皆様にご不便をおかけしていましたが、令和6年12月より面会制限を解除し、午後の時間帯において、予約なしでの直接面会を再開しております。

今後も感染症の発生状況によっては、一時的に面会制限を実施する場合がございますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

院内研究発表会

当院では毎年、職員が日常業務の中で調査・研究した成果を報告する院内研究発表会を開催しています。

今年度は、2 月 6 日に開催し、発表された 6 題をご紹介します。



大腿骨近位部骨折クリティカルパス患者のBI及びFIM向上への効率的な取り組み～マトリクス分類の活用～

第 1 病棟 岩城 香穂、山口 明莉

今年度 1 病棟では、大腿骨近位部骨折クリティカルパス（以下骨パスとする）患者の BI 及び FIM 向上への効率的な取り組み～マトリクス分類の活用～について研究しました。

職員を対象に骨パスに関する周知や目標の意識づけを行い、関連職員が統一した働きかけを行うことで、より短時間で効率的な運動機能向上へとつなげられるのではないかと考えました。

今回は症例数が少なく、有用なデータをもとに十分な評価をできませんでしたが、運動機能の向上につながるとは言えない結果となりました。

患者の日常生活に必要な動作の状況把握手段として、視覚的に把握できる方法の検討を行い、長期目標と介助内容を表示したことで介助する際に患者の状態に合わせて、統一した援助ができるようになった職員が少数ですが増えました。表示内容の見直しや掲示物以外のアプローチ方法を検討し実践することで、より効率的かつ有効的なリハビリテーション、看護、介護方法の確立へつなげられると考えています。

地域包括ケアパス作成・導入・分析の取り組み～バリエーション分析結果よりみえてきたこと～

第 2 病棟 成澤 真理、齋藤 克将

2 病棟では地域包括ケア病床入院患者の現状と在宅復帰率向上に向けた看護研究を 2021 年度から 3 年間継続的に取り組んできました。これまでの研究結果において職員全員が統一した退院支援を行うために、スケジュール表を活用し入院時から退院後を見据えた援助を多職種で共有していくことが在宅復帰率向上に繋がるという結果でした。4 年目は地域包括ケアパスの作成と導入、退院時の成果達成やバリエーション分析を行いました。バリエーションで一番多い項目は「自宅の準備が整わない」でした。理由は、「自宅の手すり設置、段差解消が必要である」「環境に合わせ歩行手段の再検討」など退院調整でした。そのため、包括パスの見直しとして、6 週目以降から 4 週目に面談や自宅訪問等の退院調整を早めに実施することが必要であると考えました。包括パスの記入漏れがありタイムリーに運用ができないこともありました。パスカンファレンスを毎週実施しており、その際に包括パスを活用しながら進捗状況を話し合い、多職種協働でタイムリーに運用できると考えました。

評価基準の信頼性を高めた転倒転落アセスメントスコアシートの作成

第 3 病棟 石井 朱音、河崎 海音、工藤 ゆり

当院では 2013 年から転倒転落対策チームを立ち上げ、患者の転倒転落予防、減少に尽力してきました。昨年度の研究では転倒転落アセスメントスコアシートの評価基準を詳細にした新シートを作成しましたが、課題として項目数が多く実用は難しい事が挙げられました。そこで本年度は曖昧な評価基準の項目を見直した新アセスメントスコアシートを作成し、評価者間一致性が高いシートになったか検証しました。結果として臨床現場で簡便に活用できるアセスメントシートを作成しましたが、評価者間一致性の観点からは一致率が低い項目もあり、更に項目や形式に精査が必要でした。また、転倒スクリーニングとして適切な項目かどうかは一致率では求められないため転倒率も含めて再検討していく必要がありました。今後転倒リスクが高い患者をスクリーニングでき、転倒予防対策に繋げることが出来るよう取り組んでいきたいと思ひます。

通所リハビリテーション利用者の自発性向上に向けた取り組み

リハビリテーション課 齋藤沙緒里、池田千尋、佐藤由佳

2015 年の介護報酬改定では「活動」と「参加」に焦点を当てたりハビリが推進され、1 回 20 分の個別リハビリテーション加算は廃止となりました。しかし、当通所リハビリでは個別対応を継続しており、利用者自身が主体的に取り組めるような課題の提供が行えていない状況でした。そこで、心身機能の維持・向上に向けた自主トレを提供し、自発的に余暇時間を過ごせるよう、リハビリの在り方を見直しました。療法士による 1 回 / 月程度の徒手的介绍と利用時の自主トレの取り組みとの体力測定の数値を比較したところ大きな差は見られませんでした。余暇時間に主体的に作業に取り組む利用者が増え、通所リハビリ全体に活気がみられるようになりました。自主トレを推奨することで心身機能の維持が図れる可能性があると考えられました。本研究の結果を基に当通所リハビリテーションでのリハビリの在り方を見直していきたいと思います。

当院における転倒・転落防止対策 ～多職種連携の中での OT の役割～

リハビリテーション課 富村 香里

当院では 2013 年より入院患者の転倒・転落防止対策への重点的な取り組みを開始しました。当院では、病棟ごとの「転倒・転落防止チーム」、部署代表者による「リスクマネージャー会議」、病院全体での「医療安全管理委員会」を設置し、対応しています。また、認知症の方が多いことから「認知症サポートチーム」、「認知症ケア委員会」で対応の検討も行っており、双方が連携して円滑にリハビリテーションが行えるよう協働しています。こうした病院全体で連携して取り組むシステムにより、転倒・転落率は 2013 年度の 5.4% から 2022 年度は 2.1% (全国平均 3.7%) となりました。患者の安全を守ろうとする職員の意識が転倒・転落率を低く保っている要因と考えます。また OT の役割として、医療従事者側からみると困る行動の背景にその人なりの理由があることを見出し多職種と共有することや具体的な対応策を提案すること、対象者にとって価値のある作業を通じて関わる事が挙げられます。

認知機能低下を呈した大腿骨骨折患者における FIM 利得の分析

リハビリテーション課 高野 一輝

【目的】

当院の令和 5 年度回復期病棟入院患者の平均年齢は全国平均より約 6 歳も高く、認知症日常生活自立度 II a 以上の割合は 69% と多いです。また、運動器疾患における大腿骨骨折患者の割合は半数を超えており ADL がどの程度まで機能回復しているか、把握する必要がありました。そこで、大腿骨骨折患者の FIM 利得向上と認知機能低下の影響を ADL 毎に分析し、併せて認知症の有無による FIM 利得への関与に関しても統計解析を行いました。

【結果および考察】

マンホイットニーの U 検定の結果、更衣、排尿コントロール、移乗等の項目で有意差が認められました。多変量解析の結果は、オッズ比 ≥ 1 、 $p < 0.05$ を満たした項目は FIM 利得（更衣、下半身）、FIM 利得、（排尿コントロール）、退院時 BI（排尿コントロール）等でした。今回の研究において、認知症患者に対しても早期から排泄動作に対する関わりや取り組みを行い、支援していく事が重要であると考えます。

病院ホームページをリニューアルしました!

この度、病院ホームページを全面リニューアルいたしました。
よりわかりやすくホームページを閲覧いただけるよう、デザイン・構成の見直しを実施いたしました。

なお、ホームページのURLが変更になっております。ブラウザの「お気に入り」「ブックマーク」などに登録されている場合は、お手数ですが新しいURLへの変更をお願いいたします。

新 URL : <https://yutagawa-med.jp/>



QRコード



行事食のご紹介

**R7.3.3
ひなまつり献立**

- ✿ ちらし寿司 ✿ いちご
- ✿ すまし汁 ✿ 桜ロールケーキ
- ✿ かぶ含め煮



あ と が き

まだまだ寒い日が続きますが、今年度も残りわずか。春の訪れを感じる季節となりました。卒業や就職などの新生活を迎える方もいるのではないのでしょうか。気持ちを新たに過ごしましょう。どんな1年になるのかとても楽しみです♪

来年度の「しらさぎ」もよろしく願います。

(N・A)



湯田川温泉
リハビリテーション病院
公式Instagram



YUTAGAWAONSEN_REHA